

噴火で想定される現象

降 灰



宮崎県・鹿児島県 新燃岳(2011年)

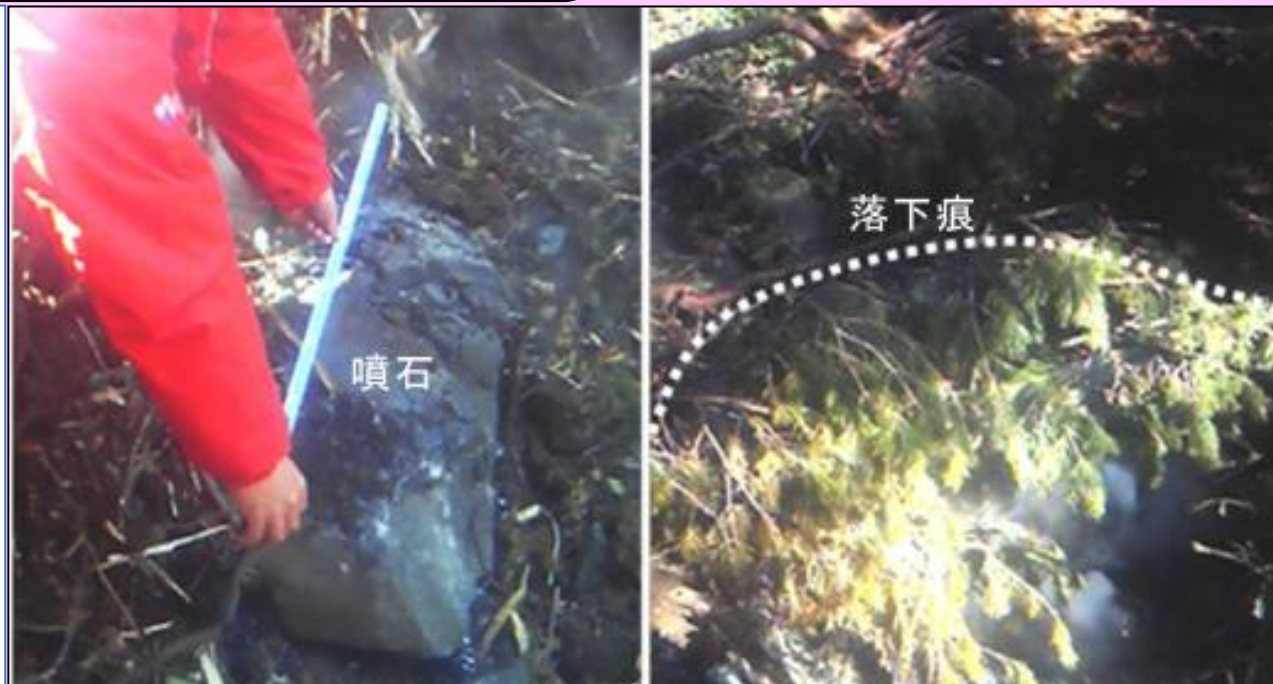
噴火によって火砕物が火口から巻き上げられ、地上に降下する現象を降灰といいます。上空の風に乗って広範囲に拡散します。また、大量に降灰が生じ火砕物が堆積した場合には、農作物の被害や車が走れなくなるなど、生活に大きな影響を与えます。

(写真：2011年新燃岳噴火時の宮崎県都城市内の降灰状況)

噴 石

噴火によって岩石が、火口から勢い良く上空に飛び出し、高速で地上に落下するものを噴石といいます。噴石はどの方向にも飛んでいき、火口に近いほど量が多く、サイズも大きくなります。大きなものだと屋根に穴があき、熱いため火事になることもあります。

「こぶし」より小さい噴石は、風に流されて4kmより遠くへ飛んでいきますので、風下側でも注意が必要です。



2011年 新燃岳爆発的噴火時の噴石(左)と落下痕(右)
(火口南西3.2km地点) (長径70cm、短径50cm)

火砕流・熱風



長崎県雲仙普賢岳(1991年)

高温の溶岩片、火山灰、火山ガスなどが混ざりあって、周囲に熱風を伴いながら斜面を高速に流下する現象を火砕流といいます。火砕流は、高速で時速100km以上になることもあります。また内部は高温な場合が多く、建物や動植物に破壊的な被害を与え、巻き込まれると大変危険です。

噴火で想定される現象

降灰後の土石流



長崎県雲仙普賢岳（1993年）

火山の噴火後、火山灰の降り積もった地域に雨が降ると土石流が発生しやすくなります。通常の土石流よりも少ない雨で起こり、流下する速度が速いのが特徴です。噴火で積もった火山灰が原因ですので、噴火が終わってからも数年間は土石流の起きやすい状態が続きます。

溶岩流



東京都伊豆大島（1986年）

火口から斜面に沿って流下するマグマ体を溶岩（溶岩流）といいます。低い場所を選んで流れ下り、通り道にある建物や樹木は焼かれ、火事になることがあります。溶岩の流速は遅いため、落ち着いて避難することができます。

火口湖決壊型火山泥流



大規模な火山泥流の例
（十勝岳、1926年、融雪型火山泥流）

積雪期の火山や火口湖では噴火と同時に大規模な泥流が発生することがあります。大幡池や不動池で噴火が起きると火口湖が決壊し、大量の水が火山灰、石や土砂を巻き込みながら、流れ下ることがあります。流れの勢いが強く、破壊力も大きいため広範囲に被害が及ぶことがあり、特に注意が必要です。